shindaiwa®

エンジンポンプ

GP401

取扱説明書

⚠ 注　意

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、内容をよく理解したうえでご使用ください。
不適切な操作や保守は重大な事故につながるおそれがあります。
なお、本書はいつでも利用できるよう、大切に保管してください。

目次	頁
1　安全にご使用いただくために	1
1－1　ご使用前に	2
1－2　給油	4
1－3　始動	4
1－4　作業	5
1－5　停止	6
1－6　点検・整備	6
1－7　移動・保管	7
2　各部名称	8
3　運転準備	10
3－1　外観と付属部品のチェック	10
3－2　すえつけ	10
3－3　吸水、吐出ホースの取付	10
3－4　ストレーナーの取付	10
3－5　呼び水の注入	11
4　エンジンの始動と停止	11
4－1　燃料の給油	11
4－2　エンジンの始動	12
4－3　始動困難なとき	13
4－4　停止	14
5　点検・整備	15
5－1　エアクリーナーの掃除	15
5－2　キャブレターの調整	16
5－3　スパークプラグの点検	16
5－4　シリンダーフィンの掃除	17
5－5　燃料フィルターの掃除	17
5－6　ポンプ内部の掃除	18
6　長期保管	19
7　故障の診断と処置	20
7－1　ポンプが揚水しない場合	20
7－2　水量が少ない場合	20
7－3　エンジンが始動しない場合	20
7－4　力がない場合	21
7－5　その他の故障	22
8　主な消耗品	23
9　仕様	24
10　性能曲線	24

弊社エンジンポンプをご購入いただきありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書で分からないことがありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所にお問い合わせください。
エンジンポンプは常温の水を移送する機械です。人的負傷、火災を予防するために安全を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因になります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠ 危　険　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。**

⚠ 警　告　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う可能性が想定される場合。**

⚠ 注　意　**取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。**

1.安全にご使用いただくために

警告ラベルの説明



この取扱説明書をよくお読みください。また内容をよく理解したうえでご使用ください。



この機械を運転中は常に耳栓、保護メガネを着用してください。落下物の危険性がある場合は保安帽を着用してください。

1－1　ご使用前に

⚠ 危　険

■ 屋内などの換気の悪い場所では、決してポンプを運転しないでください。排気ガスにより、ガス中毒をおこします。

⚠ 警　告

■ 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）にポンプを使用させないでください。

■ 本機を他人に貸す時は、必ず取扱説明書を添付してください。

■ このポンプを、砂利を含んだ水、60℃以上の温水、油、有機溶剤などの移送に使用しないでください。

■ エンジン始動時および運転時は絶対に回転部分に手や足を近づけないでください。

■ 排気ガスを直接吸わないでください。人体に有害です。

■ 決してポンプを勝手に改造しないでください。また、マフラーなどを取り外さないでください。

■ 作業中はポンプの周辺に子供や動物を近づけないようにしてください。

■ 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを止め、作業を中止してください。



■ 裾のひらひらした服、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。頭髪は肩から下に垂れないように覆ってください。機械の可動部に絡まる危険性があります。

■ 落石やなだれのおそれのある場所では、使用しないでください。

■ 靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。

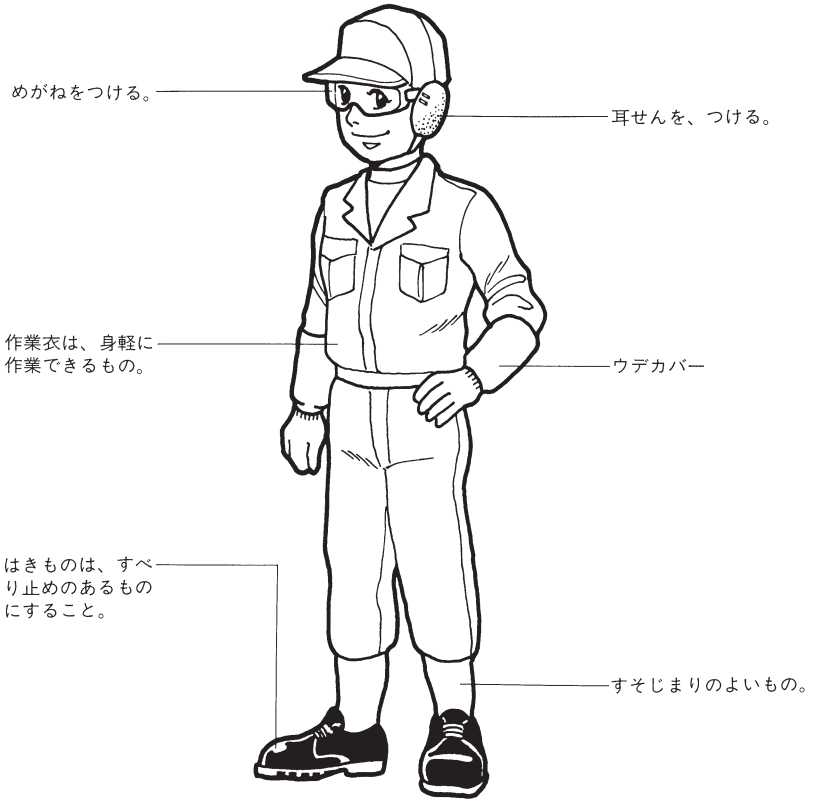
■ 耳栓とめがねをつけてください。

■ 混合ガソリンを使用しますので、ポンプのそばで喫煙やたき火をしないでください。火災発生のおそれがあります。

■ 作業前に燃料漏れがないか確認を行ってください。漏れがあった場合はただちに修理してください。

■ マフラーやマフラーから出る排気は非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

安全に能率よく作業するために下図の服装を参考にしてください。



⚠ 注　意

■ 作業前にポンプの点検を行ってください。この時、破損した部品は交換し、ネジの脱落やゆるみのないことを確認してください。

■ 作業前に吸水ホース、吐出ホースがしっかりと取り付けられているか確認してください。

■ 作業前に作業場所をきれいにしてください。

1－2　給油

⚠ 警　告

■ ガソリンと2サイクル専用オイルの混合および給油は、屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外して行ってください。急に燃料キャップをはずすと燃料が吹き出すことがあります。

■ こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。

■ 燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

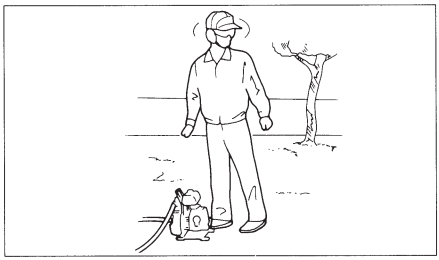
1－3　始動

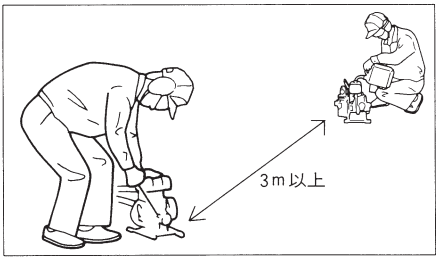
⚠ 警　告

■ エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定の良い場所で行ってください。

■ 始動時は周囲の安全を確認して行ってください。

■ 漏れた燃料への引火防止のためエンジンの始動は、給油場所から3m以上離れた場所で行ってください。





⚠ 注　意

■ ホースの先端を固定し、ホースを伸ばした状態で始動してください。水の勢いでホースが動きまわり、ケガの原因となります。

■ 呼び水キャップと水抜きキャップはしっかり締め付けてあることを確認してください。締め付けがゆるい場合、キャップが飛び出しケガの原因になります。

1－4　作業

⚠ 警　告

■ 運転中にポンプを移動、運搬しないでください。

■ ポンプを落としたり、何か異物が当たったときは、エンジンを止めて損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、すみやかに修理してください。

■ 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止して、火気を近づけないようにし、ただちに修理してください。

⚠ 注　意

■ 揚水作業開始後、ホースの接続部、ポンプケーシングからの水漏れがないか確認してください。

■ 作業中にポンプが移動していないか、ホースが目的の場所にセットされているか常に確認してください。

■ 作業中に吐出ホースを折り曲げたり、踏んだり、吐出口をふさいだりしないでください。吐出圧力により、ホースがはずれたり、ポンプの故障の原因となります。

■ 運転中または停止直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）に触れないでください。ヤケドをします。

■ 運転中は高電圧部（プラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。

1－5　停止

⚠ 注　意

■　エンジン停止後、必ず燃料コックを閉じてください。

■　エンジン停止後はホースの中に水がたまっているので、ポンプの移動およびホースの取り外し時には注意してください。

1－6　点検・整備

⚠ 警　告

■　点検・整備（掃除など）を行うときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

■　ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のない所で行ってください。

■　燃料キャップ、燃料タンク、燃料パイプおよびキャブレターなどから燃料漏れがないか定期的に確認してください。

■　整備と修理を行うときは弊社純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になる危険性があります。

■　取扱説明書に記述がない整備や修理は行わないでください。そのような整備や修理はお求めの販売店かお近くの弊社営業所に依頼してください。

■　道路をまたいだり、車輌（歩行者も含む）が通行するような所にホースを渡す場合は、必ずホースが潰れないように保護をしてください。

1－7　移動・保管

⚠ 警　告

■　移動時あるいは保管時にはエンジンを停止し、燃料コックを閉じてください。

⚠ 注　意

■　保管の際は、燃料漏れ、破損、ケガなどを防止するために、ポンプを転倒しないように安定した場所に置いてください。

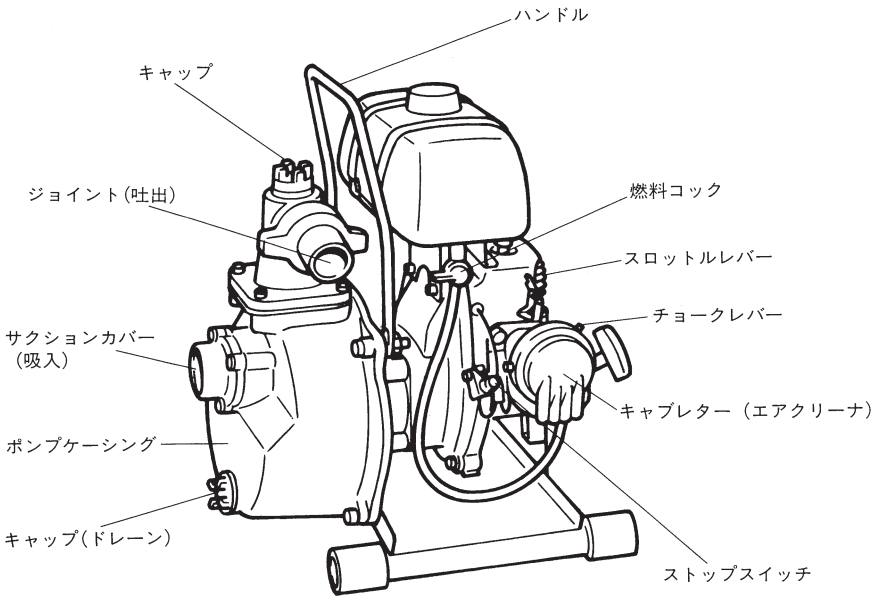
■　年少者（子供）の手が届かない乾燥した冷暗所に保管してください。

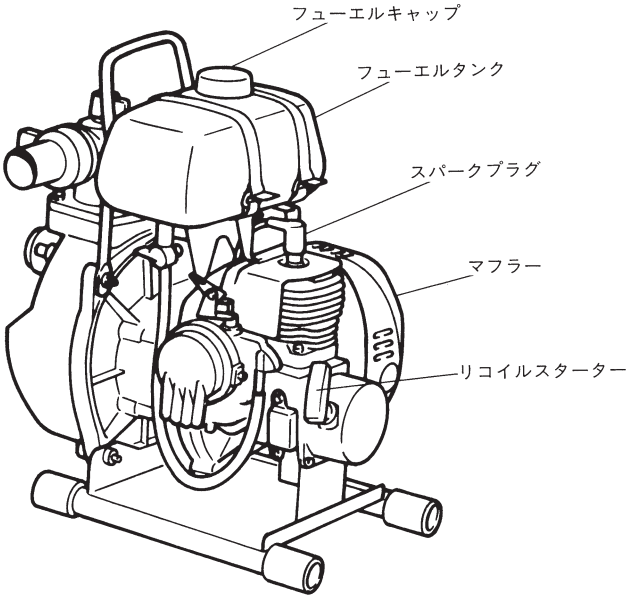
■　2～3日以上保管する場合は燃料タンクおよびキャブレターの燃料を空にしてください。

■　作業終了後は、ケーシング内の水を抜くようにしてください。特に冬期は、ケーシング内の水が凍結しポンプ破損の原因となります。

■　長期保管の場合は、ポンプ内の水を完全に抜き取ってください。再始動時、錆発生による異音発生の原因となります。

2．各部名称


ハンドル
キャップ
ジョイント（吐出）
燃料コック
スロットルレバー
チョークレバー
サクションカバー
（吸入）
キャブレター（エアクリーナ）
ポンプケーシング
キャップ（ドレーン）
ストップスイッチ


フューエルキャップ
フューエルタンク
スパークプラグ
マフラー
リコイルスターター

1．ハンドル	ポンプを運搬する時に持ちます。
2．燃料コック	燃料タンクのコックです。
3．スロットルレバー	エンジンの回転をコントロールします。
4．チョークレバー	冷えているエンジンの始動時に燃料と空気の混合割合を調整し、始動性をよくします。
5．キャブレター	気化器です。
6．ストップスイッチ	スイッチを押すとエンジンが停止します。
7．水抜きキャップ	水抜きキャップをはずしてポンプ内の水を排出します。
8．ポンプケーシング	ポンプ本体のカバーです。
9．サクションカバー	吸い込み口のカバーです。吸水ホースを接続します。
10．ジョイント	吐出ホースを接続します。
11．呼び水キャップ	呼び水キャップをはずして呼び水をいれます。
12．燃料キャップ	燃料タンクのふたです。
13．燃料タンク	燃料を入れる容器です。
14．スパークプラグ	混合気に火花で点火するための部品です。
15．エアクリーナー	エンジンに吸引する空気のゴミを取り除くフィルターです。
16．マフラー	排気音を減少させます。
17．リコイルスターター	ロープを引いてエンジンを始動します。

3．運転準備

3－1　外観と付属部品のチェック

この製品は工場出荷の際、厳重な検査を行っておりますが、念のためにこの製品の損傷やボルト、ナット類のゆるみなどがないか点検してください。また、付属部品の欠品がないか点検してください。

もし、点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお求めの販売店か弊社営業所へご連絡ください。

3－2　すえつけ

ポンプをできる限り吸水源に近づけ、安定のよい平らな場所にすえつけてください。吸水源からポンプまでの距離が長かったり、ポンプの位置が高い場合は、揚水量が減少したり、吸水しない場合がありますから注意してください。

3－3　吸水、吐出ホースの取付

⚠ 注　意

吐出ホース接続部はもれのないよう確実に締め付けてください。運転時、水が噴き出し、ケガをするおそれがあります。

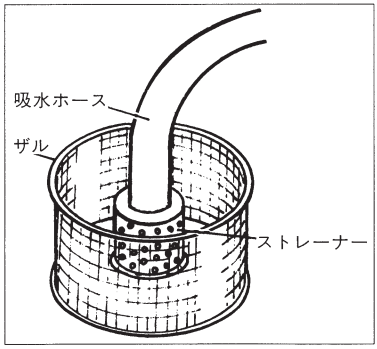
注記

吸水ホースは確実に接続してください。エアが入ると吸水しません。

3－4　ストレーナーの取付

吸水ホースの先端には必ずストレーナーを取り付けてください。

ストレーナーが、泥、砂、木くず、ゴミなどに埋もれないよう、大きなザル状のものの中にストレーナーを入れれば、吸水がスムーズに行えます。



3－5　呼び水の注入

⚠ 注　意

このポンプは自吸式です。運転前には必ず呼び水を注入してください。呼び水がない状態でポンプを運転すると、メカニカルシールの損傷を招き、ポンプは水を吸い上げません。

呼び水キャップをはずし、ポンプ内がいっぱいになるまで注入し、呼び水キャップを確実に締め付けてください。呼び水は停止時には排出されず、ポンプ内に残留しますので、続けて使用する場合には不要です。

4.エンジンの始動と停止

4－1　燃料の給油

⚠ 警　告

給油は屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。

⑴燃料

燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して2サイクル専用オイル1の割合で混合した混合燃料を使用してください。

燃料の混合は安全容器に2サイクル専用オイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

例）	ガソリン25	：2サイクル専用オイル1
	（リットル）	（cc）
	1	40
	4	160
	8	320

⚠ 注　意

正しい混合比の燃料を使わないと、適正な性能が出なかったり、エンジン焼き付きの原因となります。

⑵給油

⚠ 注　意

■ 異物やゴミをタンク内に入れないために、燃料を給油する前にキャップのまわりをよく掃除してください。
■ 燃料は常に新しい物を使用してください。2～3カ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると故障の原因となります。

① 給油する前に燃料をよく混合してください。
② 燃料タンクの燃料キャップをゆっくりとはずし、燃料を給油してください。
③ 給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

4－2　エンジンの始動

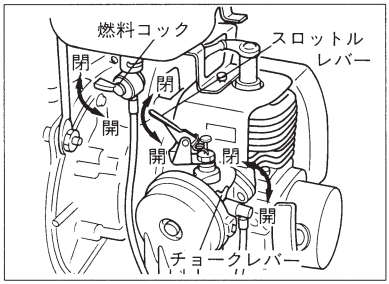
⚠ 注　意

始動時にリコイルスターターのロープを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

⑴エンジンが冷えている時、または燃料切れで燃料を補給した時

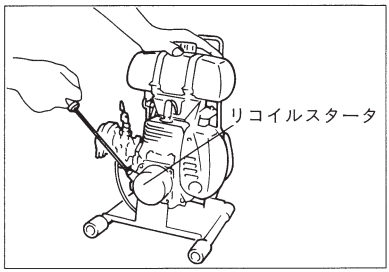
① 燃料コックを開き、そのまましばらく置いて燃料を十分にキャブレターに送りこみます。

② チョークレバーを閉にします。



③ スロットルレバーを半開にします。

④ 左手でエンジンを押さえ、右手でリコイルスターターを引きます。



注記

チョークレバーを閉にして始動するとき、爆発音がしたら、必ずチョークレバーを開にして再始動して下さい。チョーレバーを開にしないと燃料の吸い込みすぎになり、始動ができなくなります。

⑤ エンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に開にしてください。チョークレバーを完全に開にする前に停止した場合は、チョークレバーを閉にして再始動してください。

⑥ 始動したら、スロットルレバーを閉にし、2～3分間アイドリング状態で暖機運転してください。その後、スロットルレバーを開にしてエンジン回転数を上げます。

⑦ エンジンが始動すると吸水を始めます。吸水が完了すると、揚水を開始します。適切な揚水量になるようにスロットルレバーで調節します。
揚水にはある程度時間がかかりますので、エンジンを始動してからすぐには水が出ません。

吸水源の水が極端に少なくなり、揚水しなくなったら、エンジンを停止してください。

⑵エンジンが暖まっている時
①－③－④－⑥－⑦の順序で始動してください。

4－3　始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。

① スパークプラグをプラグレンチではずし、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。

② スパークプラグが濡れている場合はスパークプラグを乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダ内から追い出してください。

⚠ 警　告

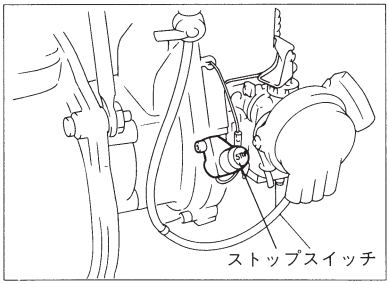
火気を近づけないでください。火災の原因となります。

③ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップをつなぎます。エンジンが暖まっている場合の方法で始動してください。

④ スパークプラグが濡れていない場合は燃料タンクから燃料が届いていないので、燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。5－5項の点検をするか、またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

4－4　停止

① エンジンをアイドリング状態にし、しばらくしてからストップスイッチをエンジンが完全に停止するまで押し続けてください。停止が困難な時は燃料コックを閉にしてください。



② 燃料コックを閉じてください。

③ 引き続き使用しない場合は、水抜きキャップをはずし、ポンプ内の水を完全に抜いてください。水がそのまま残っていると腐食の原因となります。また、冬期は凍結し、ポンプが破損します。

5．点検・整備

⚠ 警　告

ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のないところで行ってください。

点検・整備表

項　　目		始動前	毎週	毎月	必要な場合
燃料キャップ、燃料タンク、燃料パイプ	漏れ点検	○			
スクリュー、ナット	点検、増締	○			
エアクリーナー	掃除	○			
キャブレター	調整				○
スパークプラグ	点検、掃除			○	
シリンダーフィン	掃除			○	
燃料フィルター	掃除			○	
ポンプケーシング内部	掃除			○	

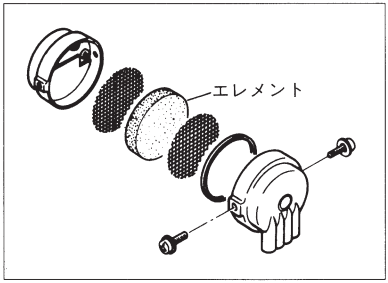
5－1　エアクリーナーの掃除

① クリーナーカバーをはずしてください。

② エアクリーナーエレメントを取り出してください。

③ エアクリーナーエレメントをガソリンでよく洗い、絞ってから取り付けてください。

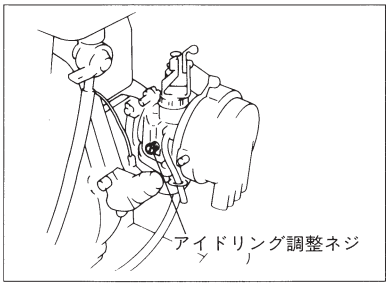
④ クリーナーカバーを取り付けてください。



5－2　キャブレターの調整

エンジンを始動し、2～3分間の暖機運転の後、次の手順で調整してください。
また、エアクリーナーが汚れている場合は掃除してから行ってください。

⑴　アイドリングの調整
スロットルレバーを閉にした時、エンジンが安定して回転するようにアイドリングを調整してください。



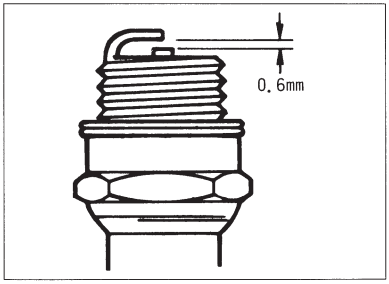
アイドリング調整ネジ
- 右にまわすと→回転が早くなる。
- 左にまわすと→回転が遅くなる。

5－3　スパークプラグの点検

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合はまずスパークプラグを点検してください。

①　プラグキャップを外し、スパークプラグを付属のプラグレンチで外してください。

②　ワイヤブラシでスパークプラグの汚れを落としてください。必要なら電極間すきまを調整をしてください。正しいすきまは0.6㎜です。



③　スパークプラグを締め付け、プラグキャップをしっかりと奥まで取り付けてください。

注記

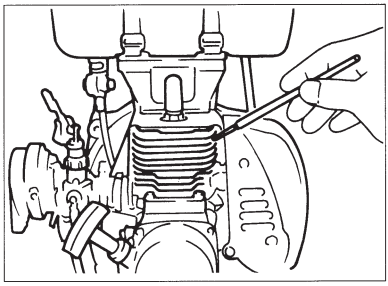
約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合はスパークプラグを交換してください。スパークプラグはNGK製 BMR６Aをご使用ください。

5－4　シリンダーフィンの掃除

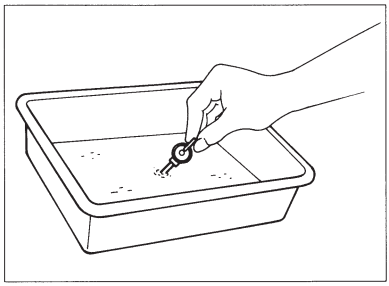
⚠ 警　告

シリンダーフィンの汚れや草のつまりはエンジンのオーバーヒート、焼き付きや火災の原因となりますので定期的に点検、掃除してください。

シリンダフィンやシリンダカバー等に付着している草やほこりを取り除いてください。



5－5　燃料フィルターの掃除



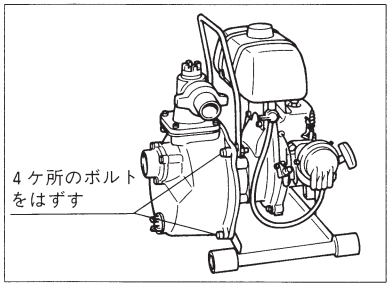
① 燃料コックを閉じて、燃料コックに接続している燃料パイプをはずします。燃料コックを開けて、燃料を排出します。

② 燃料コックの締め付けバンドのスクリューをゆるめ、燃料コックをはずします。はずした燃料コックの上部に燃料フィルターが付いていますので、燃料コックといっしょにガソリンで洗浄してください。

③ 燃料コックと燃料パイプをもと通りに取り付けてください。

5－6　ポンプ内部の掃除

ポンプケーシングをはずして内部のゴミなどを水で洗浄してください。



6.長期保管

⚠ 注　意

燃料タンクやキャブレター内に長期間、燃料を残しておくと、燃料が変質してエンジンが始動しなくなったり、キャブレターなどの故障の原因となります。

次の手順に従って保管してください。

⑴　各部を十分に掃除してください。

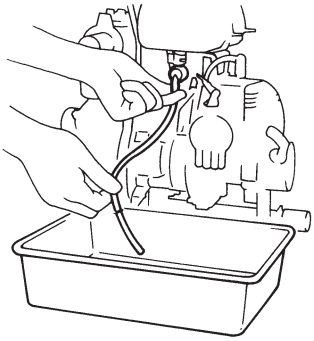
⑵　点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。

⑶　燃料タンクと燃料タンクからキャブレターまでの燃料を排出してください。

①　燃料コックを閉にしてください。

②　クリップをはずしキャブレターからフューエルパイプをはずしてください。

③　フューエルパイプを下に向け、燃料コックを開にして、燃料を排出してください。



④　フューエルパイプをもと通り取り付けてください。

⑷　キャブレターのドレンスクリューをはずしてキャブレター内の燃料を排出します。

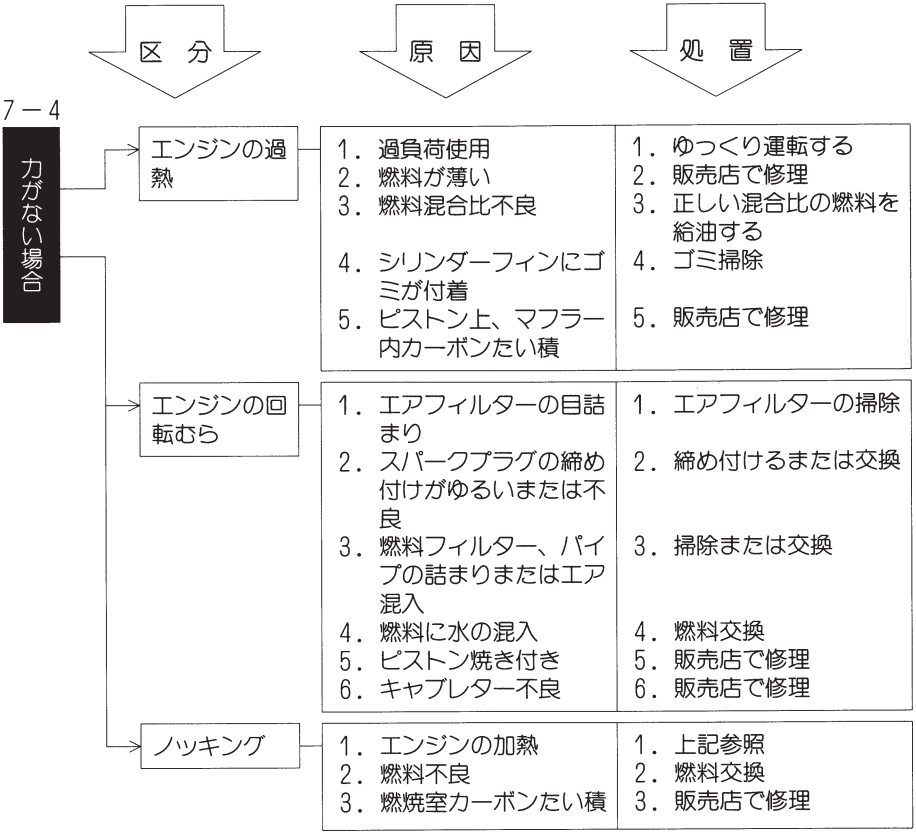
⑸　スパークプラグをはずし、スパークプラグ穴から少量の 2 サイクルオイルをシリンダー内に流し込み、オイルがゆきわたるように 2 ～ 3 回リコイルスターターを引いてください。スパークプラグをもと通りに取り付けてください。

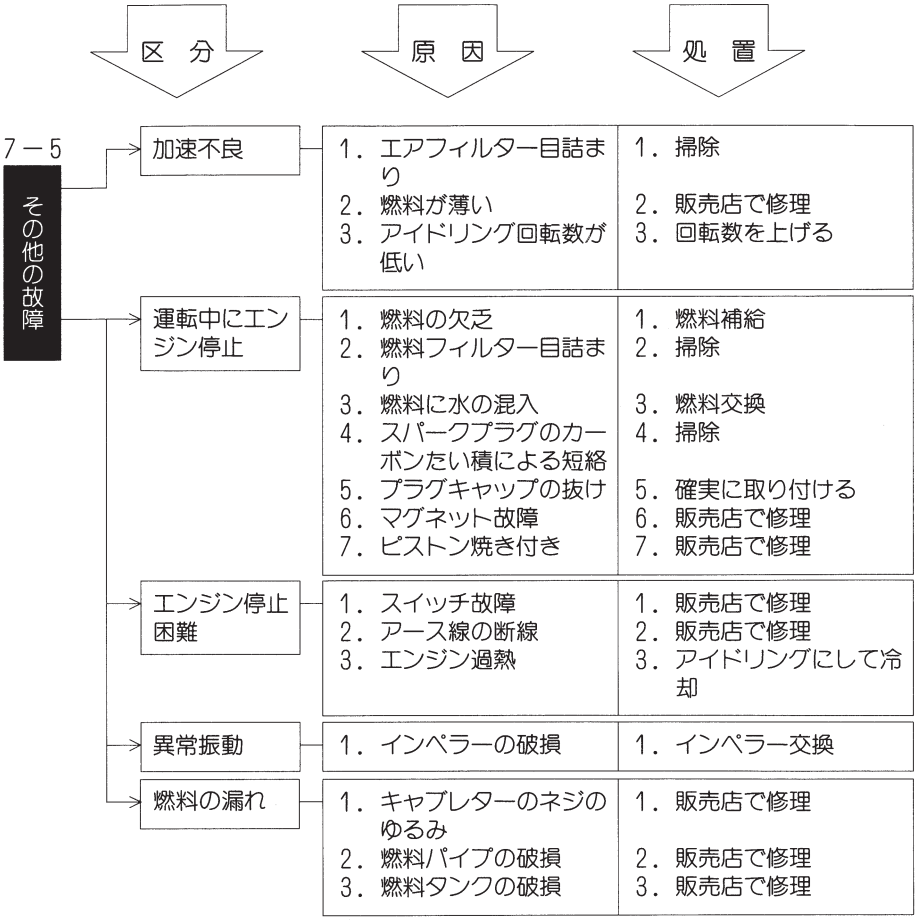
⑹　水抜きキャップをはずし、ポンプ内の水を完全に抜いてください。

⑺　乾燥した火気のない冷暗所に保管してください。

7．故障の診断と処置

区分		原因	処置
7－1 ポンプが揚水しない場合		1．呼び水が不足 2．回転がおそい 3．ストレーナーのつまり 4．サクションホースの破損 5．サクションホースの接続部からのエアもれ 6．吸い込み揚程が大きい 7．ポンプ内の堆積物による循環水不足 8．ゴムパッキン類の劣化及び破損	1．呼び水を追加 2．エンジン回転を上げる 3．掃除 4．交換 5．強く締め付ける 6．適切な場所に移動 7．堆積物を取り除き呼び水を入れる 8．交換
7－2 水量が少ない場合		1．エンジン回転がおそい 2．ストレーナーのつまり 3．インペラーの摩耗	1．エンジン回転を上げる 2．ストレーナーの掃除 3．交換
7－3 エンジンが始動しない場合	エンジンが回転しますか？	1．リコイルスターター不良 2．ピストン焼き付き 3．インペラがする	1．販売店で修理 2．販売店で修理 3．販売店で修理
	圧縮は良好ですか？	1．スパークプラグの緩み 2．シリンダ、ピストン、ピストンリングの摩耗	1．締め付け、再始動 2．販売店で修理
	燃料タンクに新しい混合ガソリンが入っていますか？	1．新しい混合ガソリンをいれる。	1．再始動
	キャブレターに燃料がきていますか？	1．燃料フィルターを掃除 2．燃料パイプの破損	1．再始動 2．販売店で修理
	スパークプラグの点検	1．スパークプラグが濡れている 2．スパークプラグのカーボン堆積 3．スパークプラグ間隙不良	1．スパークプラグを乾燥させ、リコイルスターターを回しシリンダー内の燃料を排出し、再始動 2．掃除し、再始動 3．0.6㎜に調整


区　分
原　因
処　置
7－4
力がない場合
エンジンの過熱
1．過負荷使用
2．燃料が薄い
3．燃料混合比不良
4．シリンダーフィンにゴミが付着
5．ピストン上、マフラー内カーボンたい積
1．ゆっくり運転する
2．販売店で修理
3．正しい混合比の燃料を給油する
4．ゴミ掃除
5．販売店で修理
エンジンの回転むら
1．エアフィルターの目詰まり
2．スパークプラグの締め付けがゆるいまたは不良
3．燃料フィルター、パイプの詰まりまたはエア混入
4．燃料に水の混入
5．ピストン焼き付き
6．キャブレター不良
1．エアフィルターの掃除
2．締め付けるまたは交換
3．掃除または交換
4．燃料交換
5．販売店で修理
6．販売店で修理
ノッキング
1．エンジンの加熱
2．燃料不良
3．燃焼室カーボンたい積
1．上記参照
2．燃料交換
3．販売店で修理


区　分
原　因
処　置
7－5
その他の故障
加速不良
1．エアフィルター目詰まり
2．燃料が薄い
3．アイドリング回転数が低い
1．掃除
2．販売店で修理
3．回転数を上げる
運転中にエンジン停止
1．燃料の欠乏
2．燃料フィルター目詰まり
3．燃料に水の混入
4．スパークプラグのカーボンたい積による短絡
5．プラグキャップの抜け
6．マグネット故障
7．ピストン焼き付き
1．燃料補給
2．掃除
3．燃料交換
4．掃除
5．確実に取り付ける
6．販売店で修理
7．販売店で修理
エンジン停止困難
1．スイッチ故障
2．アース線の断線
3．エンジン過熱
1．販売店で修理
2．販売店で修理
3．アイドリングにして冷却
異常振動
1．インペラーの破損
1．インペラー交換
燃料の漏れ
1．キャブレターのネジのゆるみ
2．燃料パイプの破損
3．燃料タンクの破損
1．販売店で修理
2．販売店で修理
3．販売店で修理

8．主な消耗品

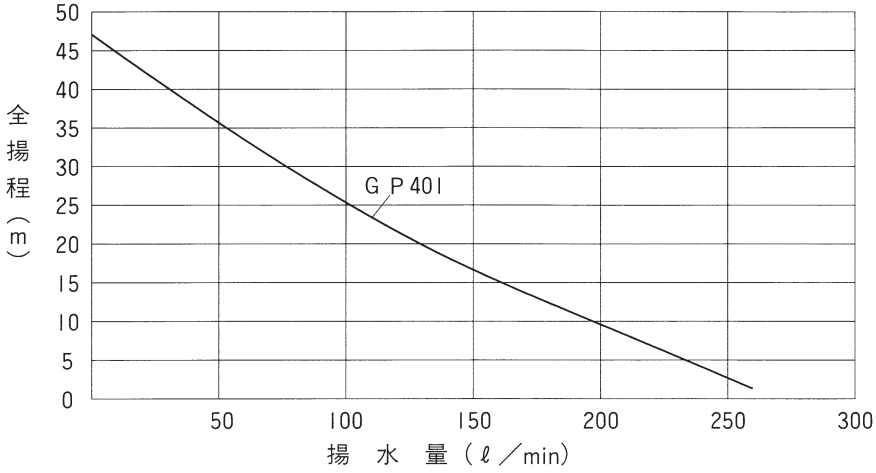
品　　名	規　　格
スパークプラグ 	NGK BMR６A

9. 仕様

モデル		GP401
ポンプ	吸水径 mm	40
	吐出径 mm	40
	最大全揚程 m	45
	最大揚水量 ℓ／min	250
	自吸高さ m	8
エンジン	エンジン形式	空冷2サイクルエンジン
	排気量 cc	41.5
	内径×工程 mm	40×33
	アイドリング回転数 rpm	2500
	最大出力 PS	2.3
	点火方式	電子点火
	スパークプラグ	NGK BMR6A
	気化器	フロート式
	エアクリーナー	半湿式
	燃料タンク容量 ℓ	1.4
	燃料	混合燃料（ガソリン：2サイクル専用オイル＝25：1）
	始動方式	リコイルスタータ
	停止方式	アース式（押ボタンスイッチ）
本体外形寸法(長さ×幅×高さ) mm		360×265×410
本体乾燥質量 kg		9.5

＊　仕様は予告なく変更することがあります。

10. 性能曲線



株式会社やまびこ

〒198-8760 **東京都青梅市末広町 1-7-2**　　**Tel 0428-32-6181**

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6777（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6丁目2-11　　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750 671-010 0

(C) 2010 **株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。**